

一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会臨時理事会 議事録

日 時：2020年6月19日（金） 15:50～17:00
場 所：千里ライフサイエンスセンターおよびweb開催

出席者： 理事長 石田 秀行
理 事 青木 大輔(web) 赤木 究 石川 秀樹 大住 省三 川崎 優子(web)
下平 秀樹(web) 杉本 健樹(web) 鈴木 眞一(web) 田中屋宏爾(web)
田村智英子(web) 平田 敬治(web) 吉田 輝彦(web)
監 事 武田 祐子 (web) 田村 和朗
陪 席 奥村 眞吾会計士 寺本 俊孝司法書士
事務局 飛松由紀子

会場及びweb上で理事13名、監事2名全員が出席し、本会が成立することが確認された。

I. 審議事項

1. 理事会新体制について

田村監事から、本会に先立って開催された評議員会において、新理事長候補者、新理事及び監事候補者が承認されたことが報告され、本会においてもこの件が諮られ、全会一致にて承認、理事長、理事、監事が決定した。以下、石田理事長が議事進行。

2. 名誉理事長推戴について

石田理事長から、富田前理事長を名誉理事長に推戴することが提案され、承認された。来年度の評議員会で承認を得る予定。

3. 各種委員会・部会活動について

石田理事長から、各種委員会・部会のミッション・要望とともに、担当理事からあげられた委員候補のリストが提示された。これらを情報共有・検討し、副委員長・アドバイザーも含めて今後1週間をめどに確定したいとの提案があり、後日メール審議で確定することが承認された。

石田理事長から示された各種委員会・部会の活動の方向性、あるいは各種委員会・部会担当理事の発言は以下のとおりである。

1) 総務委員会（担当：平田理事）

- ・会員管理に関して、事務局と連携して、会員データの整理、運用方法を検討する。

- ・理事会、評議員会等、各種会議の潤滑な運営、管理

- ・学術集会のあり方の検討

- *会計の一本化（財務委員会と連携）

- 奥村会計士から、法人化に対応した会計報告の必要性について説明があった。青木理事から、本学会として一本化の方針が固まれば、予定されている学術集会会長への早めの連絡等配慮願いたいとの発言があった。

- *市民公開講座の開催：学術・教育委員会でも市民公開講座の企画がある。学術集会の開催において教育面での継続的テーマも検討する必要がある。

- 学術集会のあり方については、総合的に、総務、会則、財務、学術・教育の各委員会が共同してあたって欲しい。特に、財務関係については第一に検討が必要である。

- ・評議員選挙の見直し

- 会員管理とも関連するが、3年後の評議員選挙に向けて、資格要件などを会則委員会と共同して再検討が必要。

- ・評議員選挙関連：今回、6名が名誉会員、特別会員に推戴された。会員数も増加の一途であり、次回理事会で会員数をみて補充の推薦を行いたい。推薦書のフォーマットの作成をお願いしたい。

2) 財務委員会（担当：青木理事）

財務のあり方のほかにも、学会費収入増加への提言などいただきたい。

3) 会則委員会（担当：鈴木理事）

COVID-19 の件を機に、評議員会表決方法、議決数など、新しい時代に則した定款、定款細則の適宜見直しを検討し、定款については来年の評議員会での承認を目指す。

4) 編集委員会（担当：下平理事）

- ・投稿数も増加しているところから、年4回の刊行を安定的に行う。
- ・論文、査読ともに質を上げることを目指す。
- ・査読量の増加から、副委員長は2人程度必要。

5) 学術・教育委員会（担当：赤木理事）

- ・本学会として、学術集會を教育的な面からどのように運営するか、他の委員会の活動との関係を検討しつつ再検討が必要。
- ・赤木理事から、学術集會時に教育系セミナーは多数準備しようと考えているとの発言があった。

6) 専門医制度小委員会（担当：田中屋理事）

経過措置が終了すると、今後は施設での3年間の研修が必要になるので、申請者が一時的に減少するのではと考えている。その対策として、研修施設、指導医の整備、充実を図っている。

7) HTC/FTC 小委員会（担当：川崎理事）

- ・HTCは資格制度化されたので、より広報周知に努めたい。
- ・FTCは、他学会の認定資格を有していることを申請要件としているため、関連学会との調整が必要である。また、2019年度は新規申請者が0である。今後は、これらを踏まえて制度を見直しや名称変更について検討する予定である。

8) 遺伝性腫瘍セミナー委員会（担当：吉田理事）

セミナーテキストの利用方法が重要と考える。講師の負担を減らすことと、後に残るもの、二次的利用を考えると、講師のインセンティブも検討したい。色々なメディアを使って、より多くの人にフェアに届ける仕組みを考えたい。

9) ガイドライン委員会（担当：大住理事）

- ・委員を3名新たに委嘱する。
- ・家族性腫瘍における遺伝子診断の研究とこれを応用した診療に関するガイドラインの改定
- ・LFSガイドライン、家族性ポリポーシス3疾患ガイドライン改定に本委員会が関連することも考えられる。

10) 倫理審査委員会（杉本理事）

学術集會演題登録の倫理審査について検討する。

11) COI 委員会（担当理事：大住理事）

- ・委員を3名新たに委嘱する。そのうち1名は外部委員とする。
- ・COI規約を現状に合わせ改定する必要があるが、改定については、評議員会での承認となっているところを、機動性を持たせるため、理事会承認に変更することを検討する。

12) 広報委員会（担当：川崎理事）

掲載情報については、各種委員会委員長、評議員、会員の協力を得て、タイムリーにアップデートすること、学会活動がよく見えるようにすることを目指す。

13) 国際委員会（担当：田村智英子理事）

医学会加盟申請にあたっては、国際的な活動が表に見えていなければならない（国際学会分科会、学術集會の国際セッション等）、何ができるかアイデアを出すところから始めたい。新型コロナウイルス感染拡大の中、海外に出ることはままならず、国際的 webinar が開催されているが、そういったものとの橋渡しができないか、と考えているところである。

14) 遺伝カウンセリング委員会（担当：杉本理事）

・一般診療で遺伝問題にタッチはしているけれど勉強していない，遺伝の専門家ががんのことは知らない，などの事態が起こらないよう，連携できるようなコンテンツとサポートシステム作りを検討したい。

15) がんゲノム・データベース委員会（担当：赤木理事）

本邦においてがんゲノム医療が急速に普及してきており、がん細胞や生殖細胞系列における遺伝子変化の解釈・臨床応用に様々なデータベースの利用が必要になってきた。本委員会では、がん診療や研究に有用なデータベースの活用法を検証し、次世代型データベースのあり方を探求する。

16) 作業部会委員会（担当：石川理事）

新しい作業部会につき、奮ってご応募いただきたい。希少疾患などがしっかりサポートできればと考えている。

17) LFS 部会（田村智英子理事）

LFS は、臓器、年代ともに多岐にわたる疾患であるが、それが一同に見渡せるのは本学会だけしかなく、臓器別学会と連携しながら、本部会を本拠地として活動していきたい。

4. 副理事長について

石田理事長から、1～2名を推薦、依頼すると発言があった。

5. 次回理事会日程について

次回理事会は、web開催も前提として、10月～11月で開催することを調整することとし、承認された。

6. 委員会規約等について

委員会規約（内規）等は、委員会により有無の状況が違うので、今後各委員会で整備頂き、次回の理事会で承認することとした。

II. 報告事項

1. 石田理事長，全理事，監事から挨拶，自己紹介があった。

2. 石田理事長から，新理事会体制の基本方針として以下が示された。

- 1) ガバナンスのさらなる強化、
- 2) 1500人を超える会員のニーズ（多様性）への対応、
- 3) 委員会・部会活動の活性化、
- 4) 学術集会のあり方の見直し、
- 5) 次世代を担う若手の育成、
- 6) 関連学会との連携強化